

大分県

森林環境税の取組み実績

平成27年度の事業概要

農林水産部 森との共生推進室

目 次

森林環境税の概要	1
森林環境税の積立・執行状況	2
平成27年度森林環境税活用事業一覧表	3

I 災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備

1. 荒廃人工林緊急整備事業	4
2. 急傾斜地危険地区緊急伐採事業	7
3. 竹林環境改善整備事業	8
4. 県営都市公園里山利活用推進事業	11
5. 次世代につなぐ景観資源再生事業	12
6. 魅力ある景観づくり推進事業	13
7. 森林シカ被害防止対策事業	14
8. おおいた生物多様性保全事業	
① 絶滅危惧種保護活動事業	15
② 奥山地域植生等調査事業	17
9. 森と海をつなぐ環境保全推進事業	18
10. 森と海のつながりの研究事業等	19

II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用

1. 再造林促進事業	21
2. 県産竹材利用促進事業	22
3. 竹産業振興対策事業	24
4. 大分県竹工芸品海外販路開拓事業	25
5. スギ丸太等海外輸出促進事業	27
6. 地域材活用住宅建設促進事業	28
7. CLT利活用等促進事業	29

III 県民参加の輪を広げ、次世代へつなぐ取組

1. 森林づくりボランティア活動促進事業	30
(森林づくり提案事業一覧表)	33
2. 森林環境教育推進事業	
① 森の先生派遣事業	36
② 名樹とのふれあい事業	37
③ 次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業	38
④ おおいた木育活動推進事業	39
3. 祖母傾避難小屋トイレ整備事業	40
4. 由布登山口環境整備事業	41
5. 森林環境学習促進事業	42
6. ごみゼロおおいた作戦推進事業	43
7. 豊かな水環境創出事業	44
8. 観光行政事務指導費	45
9. 「山の日」制定記念祭	46
10. みんなで支える森林づくり推進事業	47
11. おおいたの森林づくり広報推進事業	49
12. 新たな育林技術等研究開発事業	50

森林環境税の積立・執行状況

<第Ⅰ期> (H18~H22)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H18	H19	H20	H21	H22	合計
基金積立額	200,781	295,120	309,363	306,987	302,495	1,414,746

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H18	H19	H20	H21	H22	合計	割合(%)
I 県民意識の醸成	23,264	38,986	41,034	37,477	28,075	168,836	14
II 環境を守り災害を防ぐ森林づくり	77,325	110,919	102,612	137,995	195,344	624,195	51
III 持続的経営が可能な森林づくり	39,740	69,371	78,595	78,595	87,154	353,455	29
IV 遊び学ぶ森林づくり	14,706	23,231	22,150	14,729	11,027	85,843	7
合計	155,035	242,507	244,391	268,796	321,600	1,232,329	100

<第Ⅱ期> (H23~H27)

1. 森林環境税の積立状況

(千円)

	H23	H24	H25	H26	H27	合計
基金積立額	304,011	305,745	307,590	306,164	307,609	1,531,119

2. 森林環境税の執行状況

(千円)

区分	年度別実績						
	H23	H24	H25	H26	H27	合計	割合(%)
I 災害に強く生物多様性に配慮した森林の整備	165,192	160,790	133,267	151,271	151,515	762,035	46.6
II 低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用	151,090	105,251	142,308	93,772	88,837	581,258	35.6
III 県民参加の輪を広げ次世代へつなぐ取組	46,050	45,447	56,115	61,921	80,986	290,519	17.8
合計	362,332	311,488	331,690	306,964	321,338	1,633,812	100

<第Ⅰ期、第Ⅱ期の合計>

(千円)

	第Ⅰ期	第Ⅱ期	合計
基金積立額	1,414,746	1,531,119	2,945,865
執行額	1,232,329	1,633,812	2,866,141

※基金積立額は、税込から市町村の徴収に要する経費を引いたもの

平成27年度 森林環境税活用事業一覧表

施策区分		事業区分	事業費 (千円)
Ⅰ 災害に強く、 生物多様性に 配慮した森林 の整備	1 荒廃森林の機能回復	1 荒廃人工林緊急整備事業	26,479
		①流木被害森林緊急整備事業 (H25～)	24,830
		②間伐放置林等緊急整備事業 (H18～)	172
		③再造林放棄地緊急整備事業 (H18～)	1,477
		2 急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業 (H27～)	9,000
	2 荒廃里山林の整備と 利活用	3 竹林環境改善整備事業(H22～)	24,767
		4 県営都市公園里山利活用推進事業 (H26～)	2,921
		5 次世代につなぐ景観資源再生事業 (H27)	12,355
		6 魅力ある景観づくり推進事業 (H25～)	8,488
	3 獣害対策の推進	7 森林シカ被害防止対策事業 (H20～)	60,102
		8 おおいた生物多様性保全事業 (H22～)	2,520
		①絶滅危惧種保護活動事業 (H24～)	
	②奥山地域植生等調査 (H22～)		
	4 森・川・海をつなぐ 流域環境の整備	9 森と海をつなぐ環境保全推進事業 (H18～)	1,346
10 森と海のつながりの研究事業等 (H26～)		3,537	
計			151,515
Ⅱ 低炭素社会と 循環した森林	1 健全な人工林資源の 再生	1 再造林促進事業 (H22～)	70,200
	2 未利用資源の有効 利用	2 県産竹材利用促進事業 (H21～)	4,300
		3 竹産業等振興対策事業 (H24～)	333
		4 大分県竹工芸海外販路開拓事業 (H25～)	3,600
	3 木材の需要拡大	5 スギ丸太等海外輸出促進事業(H21～)	6,209
		6 地域材活用住宅建設促進事業 (H23～)	1,626
		7 C L T利活用等促進事業 (H26～)	2,569
	計		
Ⅲ 県民参加の輪を 広げ、次世代へ つなぐ取組	1 森林ボランティア 活動の推進	1 森林づくりボランティア活動促進事業	22,941
		①森林づくりボランティア支援センター事業 (H18～)	3,466
		②森林ボランティア活動支援事業 (H18～)	400
		③森林ボランティア技術向上事業 (H18～)	1,305
		④企業参画の森林づくり推進事業 (H19～)	915
		⑤森林づくり提案事業 (H18～)	16,855
	2 森林環境教育・木育 の推進	2 森林環境教育推進事業	8,342
		①森の先生派遣事業 (H19～)	4,141
		②名樹とのふれあい事業 (H25～)	1,800
		③次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業 (H24～)	700
		④おおいた木育活動推進事業 (H26～)	1701
		3 祖母山避難小屋トイレ整備事業 (H27～)	13,332
		4 由布登山口環境整備事業 (H27～)	6,550
		5 森林環境学習促進事業 (H18～)	6,931
		6 ごみゼロおおいた作戦推進事業 (H26～)	2,879
	7 豊かな水環境創出事業 (H26～)	7,377	
	8 観光行政事務指導費 (H26～)	985	
	9 「山の日」制定記念祭 (H27～)	3,737	
	3 森林整備への理解と 参加を広げる活動	10 みんなで支える森林づくり推進事業	3,656
11 おおいたの森林づくり広報推進事業(H18～)		2,226	
4 森林づくりに繋がる 新たな取組の支援	12 新たな育林技術等研究開発事業 (H18～)	2,030	
計			80,986
合計			321,338

I - 1 荒廃人工林緊急整備事業

【森林整備室】

1 実施主体

5 森林組合、5 市町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

平成24年7月の九州北部豪雨災害では、河岸の侵食により、河川沿いの手入れ不足の人工林の木が流木となり、下流域に被害を及ぼした。

また、尾根部や急傾斜地等の木材生産に適さない人工林では、長年間伐が実施されない「間伐放置林」や皆伐後に再造林されずにそのまま放置される「再造林放棄地」が発生し、森林の持つ公益的機能が低下している。

(2) 目的

河川沿いの流木発生の危険性が高い森林や、間伐放置林及び再造林放棄地等の荒廃人工林を対象に森林整備を行い、山地の崩壊防止等の公益的機能が発揮できる森林に誘導する。

(3) 事業内容

① 流木被害森林緊急整備事業

河川沿いの流木発生の危険性の高い森林を対象とした更新伐・林内整備による自然植生の回復・広葉樹林化

② 間伐放置林等緊急整備事業

災害の発生が懸念される間伐放置林等の強度間伐による針広混交林化等

③ 再造林放棄地緊急整備事業

災害の発生が懸念される再造林放棄地の植栽・下刈りによる自然植生の回復

3 成果

①流木被害森林緊急整備事業

伐採率40%以上の更新伐と林内整備を行うことにより、自然植生の回復・広葉樹林化が促進された。

〈更新伐〉

年度	H25	H26	H27	計
計画	57ha	43ha	50ha	150ha
実績	57ha	43ha	42ha	142ha

②間伐放置林等緊急整備事業

40%の間伐により、早期に自然植生の侵入により針広混交林化を促進し、表土の流出を抑えることで、公益的機能を高めることができた。

〈間伐〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28	計
計画	150ha	25ha	25ha	10ha	15ha	225ha
実績	145ha	13ha	16ha	1ha	-	175ha

③再造林放棄地緊急整備事業

広葉樹の植栽・下刈を行うことにより、災害に強い森林の造成を行った。

〈植栽〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28	計
計画	5ha	4ha	5ha	2ha	2ha	18ha
実績	3ha	3ha	3ha	0ha	-	9ha

〈下刈〉

年度	H24	H25	H26	H27	H28	計
計画	111ha	72ha	52ha	36ha	29ha	300ha
実績	47ha	34ha	20ha	19ha	-	120ha

4 今後の課題と取組

間伐放置林や再造林放棄地を解消する取組に加え、流木被害が発生する恐れのある河川沿いの人工林を整備し、自然植生の回復・針広混交林化を図り、災害に強い森林づくりをさらに推進する。

5 実施状況写真

①流木被害森林緊急整備事業

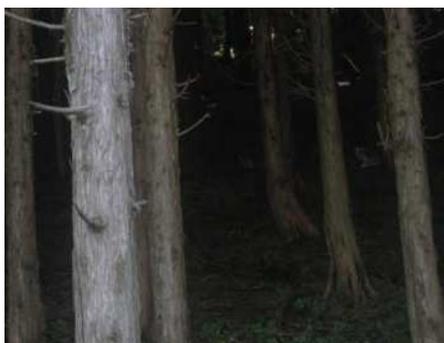


事業実施前



事業実施後

②間伐放置林等緊急整備事業



間伐実施前



間伐実施後

③再造林放棄地緊急整備事業



再造林放棄地



植付5年後

I-2 急傾斜地崩壊危険区域緊急伐採事業

【砂防課】

1 実施主体

大分県（土木事務所）

2 実施事業の概要

（1）現状と課題

危険箇所の多くは山林であるが、近年の急激な過疎・高齢化、木材価格の低迷等により間伐等の手入れが行き届かず、土砂災害防止機能等の公益的機能が低下している。特に、人家裏など生活環境に近接する放置森林は、台風による暴風や豪雨時に倒木や崩壊の危険性が高く、住民の生命・財産に影響を及ぼす恐れがある。

（2）目的

土砂災害危険箇所のうち急傾斜地崩壊危険区域に指定された箇所において、雑木等を伐採することにより、がけ崩れや倒木被害を未然に防止する。

（3）事業内容

急傾斜地崩壊危険区域内で、倒木やがけ崩れ被害を招く恐れがある雑木等の伐採、運搬、処分を行う。

3 成果

人家裏の危険木や雑木を適切に整備することにより、倒木や土砂災害に対する住民の不安が緩和された。また、森林の土砂災害防止機能を回復させる本事業を実施することで、公益的機能を高め、土地の良好な管理を含めた総合的・抜本的な急傾斜地の崩壊対策が期待できた。

4 今後の課題と取組

今後も引き続き本事業を実施することにより、急傾斜地崩壊危険区域における倒木や崩壊の危険性の解消に努める。

5 実施状況写真



（伐採前）



（伐採後）

I-3 竹林環境改善整備事業

【森との共生推進、林産振興室】

1 実施主体

市町村、大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

竹材、タケノコ需要量は外国産や代替品等の台頭により減少し、放置竹林が増加している。また、放置竹林は周辺に面積を拡大し生活環境の悪化、生態系の単純化、土砂崩壊防止機能の低下などを招いている。

(2) 目的

① 県土の保全と良好な景観を確保するため、主要観光地周辺や幹線道路沿線及び集落周辺の鳥獣害対策が必要な箇所における荒廃竹林の整備、広葉樹林への転換等を推進する。

② 竹材、タケノコ生産地として持続的管理が見込める荒廃竹林の再生を推進する。

(3) 事業内容

① 広葉樹林化

荒廃竹林を広葉樹林に転換するために必要な伐竹、広葉樹の植栽、再生竹除去等を実施。

② 大分空港道路竹林整備

大分空港道路沿線の荒廃竹林について、景観改善の目的で伐竹、広葉樹の植栽を実施。

③ 優良竹林化

竹材、タケノコ生産として活用するため、荒廃竹林の整備及び作業路の開設を実施。

3 成果

荒廃竹林を整備することで、景観の改善が図られた。また、タケノコ・竹材生産等の利活用を促進し、持続管理を図るための竹林整備を実施できた。

① 広葉樹林化

(ha)

市町村	伐竹整備	再生竹除去
竹田市	0.86	0.57
宇佐市	0.2	0
由布市	0	2.45
玖珠町	0.28	0
計	1.34	3.02

② 大分空港道路竹林整備

(ha)

	実施主体	伐竹整備	再生竹除去
民有地	杵築市	0	1.42
	国東市	0.14	0
県有地	大分県	2.56	3.56
計		2.70	4.98

③優良竹林化

	管理方法 (ha)		計	簡易作業路開設 (m)
	タケノコ生産	竹材生産		
別府市	0.65		0.65	
杵築市	3.89		3.89	910
国東市	0.29		0.29	
玖珠町	0.91		0.91	
日田市	1.42		1.42	
臼杵市	2.11		2.11	150
豊後大野市	0.17	1.00	1.17	
宇佐市	0.20		0.20	200
計	9.64	1.00	10.64	1,260

4 今後の課題と取組

これまでの取組に加え、平成28年度から竹チップ、竹炭等への利活用を推進し、荒廃竹林の再生を推進する。

5 実施状況写真

①広葉樹林化

(伐竹整備、植栽)



【実施前】



【実施後】

(再生竹除去)



【実施前】



【実施後】

②大分空港道路竹林整備



【実施前】



【実施後】

③優良竹林化



【実施前】



【実施後】



【簡易作業路の開設状況】

I-4 県営都市公園里山利活用推進事業

【公園・生活排水課】

1 実施主体

大分スポーツ公園分 一般財団法人日本造園修景協会大分県支部
NPO法人大分環境カウンセラー協会
ハーモニーパーク分 NPO法人やまもりの会
NPO法人エー・ビー・シー野外教育センター

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分スポーツ公園には里山が、ハーモニーパークには竹林があるが、県民に利活用されていない。

(2) 目的

県営都市公園の里山や竹林を活用し、県民の自然体験や環境学習等の機会を設け、県民参加の里山や竹林の再生の推進と自然環境保全への意識を醸成する。

(3) 事業内容

大分スポーツ公園の里山及びハーモニーパークの竹林を開催場所とした自然体験活動や環境学習等について、NPO等に企画・運営を委託して事業を実施する。NPO等の特性を生かしたきめ細やかな対応や自由な発想に基づく内容とする。

3 成果

年度	公園名	開催数	参加者数計	申込者数計
H27	大分スポーツ公園	9回	354人	932人
	ハーモニーパーク	4回	227人	564人

4 今後の課題と取組

集合場所がわかりづらいとの意見があったため、案内図を事前に送付し、当日は看板や案内係を増やす。

5 実施状況写真

カップガーデン



サンショウウオの池観察



土壌生物観察



流しそうめん



竹炭・花炭づくり



ミニ門松づくり



I-5 次世代につなぐ景観資源再生事業

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

宇佐市、佐伯市、国東市、中津市、杵築市、日出町、玖珠町

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県内には、恵まれた自然環境から創出された景観資源が多数あり、視点場の整備がなされてきた。一方、管理者不足により、景観が維持できなくなっている。

(2) 目的

展望所等の視点場が整備された箇所において、放置され、手入れがなされなかった雑木等を伐採することにより、景観を再生し、維持・継承する契機とする。

(3) 事業内容

視点場からの眺望を阻害する雑木等の伐採を行う市町村へ補助を行う。

(単位：千円)

実施主体	伐採箇所	事業費	(補助金)	補助率
市町村	空の展望所（佐伯市米水津）、 荒瀬橋（宇佐市院内）ほか	24,877	(12,355)	1/2 以内

3 成果

- ・展望所等の眺望が当時の状態に再生され、観光客の増加につながった。
- ・景観再生の効果が実証でき、他地域での事業展開の契機となった。

4 今後の課題と取組

景観を阻害する雑木の除去を必要とする土地が民有地の場合に、協力を得られないことがあったことから、今後は、景観保全の重要性を理解してもらいたため、整備を実施し、景観が再生した事例を積極的に PR していく。

5 実施状況写真

<空の展望所（佐伯市米水津）>



伐採前



伐採後

I-6 魅力ある景観づくり推進事業

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、中高年世代を中心として登山やオルレ・ロングトレイル愛好者が増加しており、大分の自然観光資源を満喫できる長距離自然歩道等に対するニーズが高まっている。

一方、整備から相当年数が経過し、歩道の荒廃、施設の老朽化が進んでおり、その魅力を十分に生かし切れていない状況である。

(2) 目的

九州自然歩道のうち、特に魅力の高い8コース及びくじゅう連山登山道など、利用者が多く見込まれるルートを中心に重点的に整備することで、県民が、県内の自然により一層親しみ、その魅力を満喫する機会を提供するとともに、県外からも利用者呼び込むことで観光振興への寄与を図る。

(3) 事業内容

九州自然歩道のうち祖母山コースの歩道、標識等の整備を行った。

3 成果

老朽化した施設の改修、登山道の整備を行うことで、登山者の安全性を確保するとともに、利用環境の改善が図られた。

4 今後の課題と取組

九州自然歩道等の安全性や利便性を向上させるため、既存施設を保全するとともに、腐食や劣化が進行している施設の補強や改修等を適宜行う。

5 実施状況写真

九州自然歩道木橋整備



九州自然歩道標識改修



I-7 森林シカ被害防止対策事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

ニホンジカによる農林業被害は県内で約 6,300 万円に上り、減少傾向にあるものの、依然として深刻な被害が懸念される。また、以前は生息が確認されなかった阿蘇・くじゅう国立公園の草原地帯においてニホンジカを目撃情報や生息痕跡が確認されていることから、稀少植物の食害等の生態系への影響が危惧される。

(2) 目的

シカによる森林生態系被害が県内各地で発生しており、森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。このため、防護資材を設置し、林木への被害を防止する。また、シカの捕獲報償金事業により捕獲の強化を行いシカの生息頭数を適正な頭数まで減少させ、森林の有する公益的機能の維持増進を図る。

(3) 事業内容

種類	事業量	県費（環境税）（千円）
防護資材等の設置	防護柵	3,480m
	樹皮防護資材	500枚
シカ捕獲報償金事業		32,976頭
計		60,102

3 成果

防護資材等の設置により林木およびクヌギ萌芽の被害防止が図れた。また、捕獲報償金によってシカの捕獲圧が強化され、森林被害対策を推進することができた。

4 今後の課題と取組

(1) 課題

依然として県内のシカの生息密度は適正密度より高い状況にあり、さらなる捕獲の推進による生息頭数の低減が必要である。

(2) 取組

林木やしいたけ原木伐採後のクヌギ萌芽へのシカ被害が発生していることから、引き続き防護柵の設置により被害を防止する。シカの生息頭数を減少させるため、捕獲報償金による捕獲強化に継続して取り組む。

5 実施状況写真



図-1 簡易ネットの設置例



図-2 ワナ内に入ったシカ

I-8-① おおいた生物多様性保全事業 (絶滅危惧種保護活動事業)

【生活環境企画課】

1 実施主体

大分県（NPO法人初島森林植物園ネットワーク、九重・飯田高原観光協会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

絶滅危惧種の保護活動は、各地域のNPO等によりボランティアで行われているが、資金や人手不足のために必ずしも意図するとおりの活動ができず、行政に対する支援の要望が強い。

(2) 目的

絶滅危惧種の保護措置をNPO等に委託し、当該団体の活動を支援することで、NPO・地元・行政が協働して行う保護活動が地域に根付き、継続・拡大していくことを目的とする。

(3) 事業内容

- ①ハコネシケチシダの保護活動（NPO法人初島森林植物園ネットワーク）
- ②ミヤマキリシマの保護活動（九重・飯田高原観光協会）

3 成果

- ①ハコネシケチシダの保護を図るため、生育地の見回りや、鹿ネットの設置、生育環境の整備（倒木等の除去）などを行った。
- ②ミヤマキリシマの保護を図るため、生育を阻害する被圧植物（ノリウツギ、アセビ等）の除伐、保護のための登山道整備、生育地への不要な侵入を防ぐためのロープ設置などを行った。

4 今後の課題と取組

- (1) 当該委託事業の終了後も、当該委託団体は絶滅危惧種の保護活動を継続していく。

5 実施状況写真

①ハコネシケチシダ

個体写真



生育環境の整備



鹿食害防止ネットの設置



②ミヤマキリシマ

生育環境



保護のための登山道整備



被圧植物の除伐



I-8-② おおいた生物多様性保全事業 (奥山地域植生等調査事業)

【生活環境企画課】

1 実施主体

大分県（大分県植物研究会に委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

生物多様性の確保など生態系の中で重要な役割を果たしてきた野生鳥獣の一部が減少する一方で、ニホンジカなどによる農林業被害が発生しており、生物多様性や希少植物への影響が懸念されている。

(2) 目的

専門家による知見が不足する奥山地域において、ニホンジカによる植生の食害状況等を調査し、希少植物等の保全策を検討する。

(3) 事業内容

植生等調査、シカ防護柵実証試験、報告書作成

3 成果

平成27年度は新たに祖母傾山系地域から日豊海岸の間にある地域において、ニホンジカの食害状況を含む植生の現況を調査し、食害の程度や植生変化の確認を行った。

また、過去に調査した祖母傾国定公園及び耶馬日田英彦山国定公園内に試験的に設置したシカ防護柵内のモニタリングを通じて、ニホンジカによる食害や植生に与える影響を検証した。

4 今後の課題と取組

引き続き食害の影響とその対策を検討するために、現に食害の見られる区域におけるシカ防護柵設置後のモニタリングを実施する。

5 実施状況写真

枯死したスズタケ（犬ヶ岳）



シカ食害のモニタリング調査



I-9 森と海をつなぐ環境保全推進事業

【廃棄物対策課】

1 実施主体

地区自治会、NPO 等の団体

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、荒廃森林からの流木等が海岸に漂着し、下流域住民の生活や経済活動の障害となっている。また、流木等の回収・切断や処理施設への搬送に労働力と経費が必要であり、下流域住民や市町村だけでの対応は困難である。

(2) 目的

漂着流木等の処理に必要な経費を補助し、地区自治会や NPO 等の団体による海岸の環境保全活動を推進する。

(3) 事業内容

団体名	実施日	場所	参加人数	処理量
NPO 法人水辺に遊ぶ会	平成 27 年 6 月 28 日～ 平成 28 年 2 月 28 日	大新田海岸、三百間海岸 (中津市)	1,082 人	約 1.3 t
クリーンアップ大分	平成 27 年 7 月 5 日	奈多海岸 (杵築市)	330 人	約 3m ³
大分県漁業協同組合臼杵地区	平成 27 年 7 月 20 日	臼杵市全域	600 人	約 18m ³
地縁団体梶ヶ浜区	平成 27 年 8 月 6 日	梶ヶ浜海岸 (杵築市)	152 人	約 25m ³
天津地域づくり協議会	平成 27 年 9 月 1 日～ 平成 27 年 9 月 30 日	宮熊・布津部海岸 (宇佐市)	70 人	約 30m ³
杵築市まちピカ運動推進委員会	平成 27 年 10 月 24 日	守江港海岸 (杵築市)	200 人	約 7m ³
長洲アーバンデザイン会議	平成 27 年 10 月 22 日～ 平成 27 年 10 月 24 日	長洲海岸 (宇佐市)	400 人	約 10m ³
計 7 団体			2,834 人	

3 成果

身近な海岸を美しくするとともに、参加者の森と海に対する環境保全意識やゴミ問題に対する関心を醸成することができた。

4 今後の課題と取組

昨年度に比べて実施団体が減少したため、事業の PR を強化し、実施団体・参加人数の増加を図る。

5 実施状況写真



I-10 森と海のつながりの研究事業等

【研究普及課】

1 実施主体

大分県（北海道大学へ一部委託）

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

国東半島・宇佐地域では、世界農業遺産登録を契機として、森林の有する多面的機能が見直され、森林保全に向けたさらなる取り組みが求められている。

森林保全の取り組みについては、宮城県気仙沼で活動するNPO法人「森は海の恋人」が先進事例として有名であり、森林域と海域のつながりを意識した取り組みが社会的にも高い関心を集めているが、森林域が海域に及ぼす影響を科学的に調査した研究事例はない。

(2) 目的

「森と海の健全なつながり」とはどういうものなのか、その構造を科学的に解明し、NPO法人「森は海の恋人」のような地域一体となった取り組みを推進する。

(3) 事業内容

国東半島・宇佐地域の特徴であるクヌギ林とため池に着目し、上流域にそれらが多い河川（桂川）と少ない河川（伊呂波川）を調査することで、森林域や里域が海域の環境に及ぼす影響を明らかにし、森から海までのつながりの機構を解明する。

(4) 前年の成果

桂川と伊呂波川では、流域の土地利用形態の違いを反映して、水質が異なることがわかった。また、出水時には水質の量と質ともに短期間に变化する可能性があることを示した。

3 成果

桂川と伊呂波川について降雨に伴う出水によって水質とそれにともなう河川から海域への栄養塩類等の流入量がどのように短期変動するのかについて調査した。

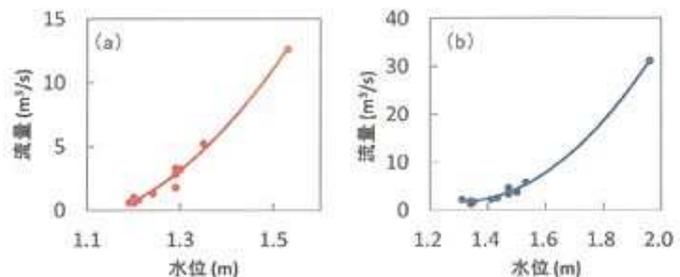


【図1】各河川の調査地点
(左：伊呂波川、右：桂川)

○ 観測点

(1) 水位と流量の関係

桂川、伊呂波川ともにより相関が見られ（図2）、水位から流量を推定できるよう



【図2】(a)伊呂波川と(b)桂川の潮止め堰上流側における水位と流量の関係

になった。

(2) 懸濁態物質(SS)濃度、全リン(TP)濃度、全窒素(TN)濃度の時間変化

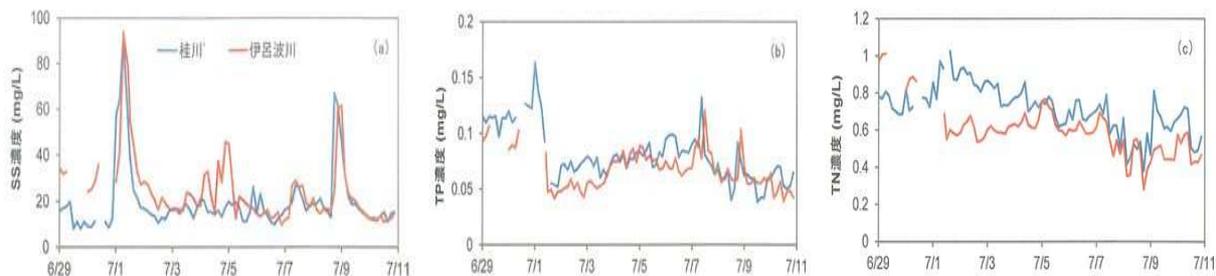
① SSは桂川よりも伊呂波川の方が高濃度であり、出水と同時に濃度が急増する。

② TPも出水と同時に濃度が急増する。

PO₄は土壌に吸着しやすいため、出水時に微細粒子とともに粒状態として流出していると考えられる。

② TNは伊呂波川よりも桂川のほうが高濃度である。流量増加後しばらく高濃度の状態が続いている。

落葉広葉樹林では硝酸生成活性が高いといわれていることから、落葉広葉樹林由来のNO₃が両河川の窒素濃度の差を生んでいるものと考えられる。



【図3】桂川と伊呂波川における(a)懸濁態物質(SS)濃度 (b)全リン(TP)濃度 (c)全窒素(TN)濃度の時間変化

(3) まとまった降雨があると河川流量は急増し、それに伴って様々な物質が河川を通じて森から海域へと流出している。

	SS (t)		TN (kg)		TP (kg)	
	桂川	伊呂波川	桂川	伊呂波川	桂川	伊呂波川
平水時	17.9	14.0	846.3	439.7	102.1	47.3
出水時	216.7	98.2	4106.9	1394.6	430.8	186.9
倍率	12.1	7.0	4.9	3.2	4.2	4.0

【表1】平水時と出水時における懸濁態物質(SS)、全窒素(TN)、全リン(TP)のフラックスおよびそれらの比

4 今後の課題と取組

年次変動等さらなるデータの蓄積が必要なため、H28年度も引き続き調査を実施する。

5 実施状況写真

水質調査



河川でのウナギ石倉調査



河川での生物調査



Ⅱ－1 再造林促進事業

【森林整備室】

1 実施主体

森林所有者、森林組合等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

木材価格の長期的低迷や森林所有者の高齢化等により、皆伐後の再造林が実施されない箇所が発生している。再造林が実施されないと、将来の森林資源確保と安定供給に支障をきたす。また、皆伐跡地を放置すると、災害の発生など森林の公益的機能が低下することが懸念される。

(2) 目的

林業適地における低コスト再造林を支援することにより、造林・間伐等の育林コストを縮減し、持続的な林業経営を推進する。また、早期に植栽することで、森林の公益的機能の回復を図る。

(3) 事業内容

伐採後の林業適地において、疎植造林(植栽本数1,000～2,000本/ha(法令による制限は遵守))を実施した事業体に対し、森林環境税を活用し、国庫補助に上乗せ助成を行う。

3 成果

事業を開始した平成22年度以降、再造林面積は増加しており、再造林放棄地が減少している。

また、平成21年度は県下全体でスギ・ヒノキの疎植造林の割合が44%であったが、平成27年度は64%を占める割合となり、再造林のコスト縮減が図られた。

<再造林促進事業の計画及び実績>

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
計画	400 ha	400 ha	400 ha	400 ha	600 ha	650 ha	650 ha
実績	257 ha	342 ha	301 ha	484 ha	466 ha	437 ha	— ha

4 今後の課題と取組

各市町村及び各森林組合を通じて、低コスト再造林施業の普及啓発をさらに進め、再造林放棄地の解消を図る。

5 実施状況写真



Ⅱ－２ 県産竹材利用促進事業

【工業振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は全国一のマダケ竹材生産地で、製竹、竹工芸、竹製品卸販売等の産業が集積しており、「別府竹細工」は大分県で唯一、経済産業省の伝統的工芸品に指定されている。

一方で、生活様式の変化やプラスチック製代替品の台頭、安価な輸入品等との競合により、竹材や竹工芸品の需要が落ち込み、その結果竹材生産量も減少し、竹林荒廃にも繋がっている。

(2) 目的

県産竹材の新たな需要開拓に繋げるため、若手竹工芸士を対象とした人材育成や創業支援および全国コンペティションの開催による建築・芸術分野における竹材の活用促進を図る。

(3) 事業内容

①「貸し工房」による竹材利用促進

「貸し工房」で竹材の有効活用や新たな竹製品開発を目指す若手工芸士を対象に、1年間作業場を提供して製作活動に専念してもらい、竹材の利用促進を探るとともに、県内への定着や工芸士としての自立を支援する。

②竹文化アートコンペティションの開催

竹を主素材とした建具・建築内装品のデザイン画を全国公募し、実際に製作したものを県内の観光施設等に展示しPRすることで、建築・内装分野における竹材の需要拡大を目指す。

3 成果

①「貸し工房」による竹材利用促進

- ・入居者:3名
- ・竹林実習一日時:平成27年10月20日 場所:国東市
講師:櫛上竹材 上野山貞男氏

②竹文化アートコンペティションの開催

- ・デザイン画募集一応募数:91点
展示審査:平成27年8月20日～26日 場所:コンパルホール
- ・作品製作展示一製作展示数:3作品 来場者数:約3,300人
展示期間:平成28年2月28日～ 場所:潮騒の宿晴海

4 今後の課題と取組

竹材利用に関わる人材育成や意識啓発のほか、別府竹細工の売上が減少傾向にあるなかで、竹工芸等の売上を伸ばし、工芸士の収入を増やすための商品開発、需要開拓、販売促進が課題となっている。

今後、新たな竹材利用の促進に向けてこれまでの取り組みを継続するとともに、新たに消費者目線での竹製品の商品開発に取り組むことで、竹材の有用性の理解や竹工芸等への関心を高め、竹材・竹製品の消費拡大を図る

5 実施状況写真

①「貸し工房」による竹材利用促進



竹材伐採研修

②竹文化アートコンペティションの開催



デザイン画展示審査



作品製作



作品展示



Ⅱ－3 竹産業等振興対策事業

【林産振興室】

1 実施主体

一般社団法人 大分県竹産業文化振興連合会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は豊富な竹資源を有しているが、代替素材の開発等により竹材利用が減少している。

(2) 目的

竹材の新用途開発や消費者への普及・啓発活動を通して竹材需要の開拓を行うことにより、竹産業の振興を図る。

(3) 事業内容

大分県竹産業文化振興連合会が実施する活動費に対し補助を行う。

3 成果

①竹の新用途開発、流通対策

- ・第56回竹の大会(研修会及び市場調査)に参加し、他地域の流通や先進的取り組みを視察し、今後の新用途開発や普及啓発活動のための情報収集を行った。

②県民への情報発信、普及・啓発活動

- ・大分県農林水産祭において、竹とんぼ・竹馬教室を開催し、幅広い年齢層を対象にした普及啓発活動に取り組んだ。
- ・くらしの中の竹工芸展を開催し、若い工芸者の技術向上や伝統工芸の保持に努めるとともに、竹製品のPRを行った。

4 今後の課題と取組

現在、竹産業従事者の高齢化及び後継者不足が進んでおり、竹産業従事者の技術向上及び後継者の確保が喫緊の課題となっている。このため、竹林研修(伐竹等)を実施し、後継者確保に努める。

5 実施状況写真



H27.10 農林水産祭(竹とんぼ教室)



H28.1~2 竹工芸展

Ⅱ－４ 大分県竹工芸海外販路開拓事業

【商業・サービス業振興課】

1 実施主体

一般社団法人 大分県竹産業文化振興連合会
アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

経済産業省の伝統的工芸品に指定されている別府竹細工は、ライフスタイルの変化、安価な輸入品の流入などにより、取引額は減少し、県全体の竹産業の活力自体も失われつつある。

(2) 目的

(一社)大分県竹産業文化振興連合会、米国タイモダン及びニューヨーク近代美術館の三者が協力し、米国における販路開拓とブランディング化を進め、輸出の拡大並びに国内における大分の竹製品の需要回復を目指す。

(3) 事業内容

①米国市場に適合する新製品（プロダクト品）の開発（事業費：1,600千円）

米国民の嗜好にマッチし、中国等の安価な製品と差別化した高品質かつ多くの地元生産者が製造できる「プロダクト品」を開発する。

(委託先：アート／デザインプロジェクトアドバイザー 米山 佳子)

②米国における竹工芸品企画展の開催補助（事業費：2,000千円）

(一社)大分県竹産業文化振興連合会が実施する、米国での竹工芸品企画展の開催を支援し、大分の竹工芸の認知度向上並びにブランディング化を図り、米国にマーケットインするとともに生産者の所得向上を図る。

3 成果

(1) 米国での取組状況について

①「竹工芸企画展・実演」(H27年9月12日～H27年12月6日、サンディエゴ市 JAPANESE FRIENDSHIP GARDEN)

②「竹工芸家ワークショップ」(H27年11月21日～11月22日、サンディエゴ市 JAPANESE FRIENDSHIP GARDEN)

(2) 新商品の販売実績等について

①新商品（テーブルセンターピース）開発数：7作品

②主な販売先

国外 JAPANESE FRIENDSHIP GARDEN（日本友好庭園）

その他 カタログ、広告販売

4 今後の課題と取組

今後は、（一社）大分県竹産業文化振興連合会が単独で継続的取引を実施できる仕組み作りを研究する。

5 実施状況写真

①新商品開発



②展覧会



③竹工芸実演



Ⅱ－５ スギ丸太等海外輸出促進事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県スギ丸太等輸出協議会、日本製紙木材(株)、瀬崎林業(株)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県の人工林は成熟期にある一方で、人口の減少などにより、木材需要の拡大は難しい状況にある。このため、国内需要の拡大にとどまらず、中国等の海外での需要拡大が課題となっている。

(2) 目的

海外市場において新たな木材需要の開拓と需要拡大と販路拡大を図る。

(3) 事業内容

スギ丸太等の輸出に取り組む企業に対し、丸太輸出に係る経費の一部を支援する。

3 成果

平成27年度輸出数量56,283m³

①輸出を通じ、県内の原木市場や素材生産業者と連携が図れ、スギ低質材丸太の需要拡大に繋がった。

②海外からの需要に応えるため、輸出量を増加させることができた。

その結果、原木価格の底上げの一つの要因となった。

単位：m³

年度	H24	H25	H26	H27	計
計画	11,000	11,000	11,000	15,000	48,000
実績	7,579	17,402	35,329	56,284	116,594

4 今後の課題と取組

丸太の輸出は年々増加してきたが、丸太の大消費国である中国の経済状況により、輸出量が左右される。輸出した丸太が現地で加工され製材品が国内に輸入される実態があることから製材品価格の下落に繋がる懸念がある。今後は、製材品の輸出を促進する。

5 実施状況写真



佐伯港丸太積込



中津港丸太輸出

Ⅱ－6 地域材活用住宅建設促進事業

【林産振興室】

1 実施主体

工務店

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

住宅の長寿命化及び人口の減少に伴い、新築住宅着工戸数は今後、減少していくことが見込まれている。また、新規に住宅を建設する際には、鉄筋コンクリート造りや木造であっても外材が4割程度使用されており、地域材の需要拡大が課題となっている。

(2) 目的

高品質乾燥材の梁桁等への利用および普及宣伝活動による地域材の需要拡大（地域材使用住宅の高品質化および地域材利用の普及）

(3) 事業内容

地域材もしくは県産材を多く利用している工務店が梁桁等に高品質乾燥材を利用し、その普及宣伝活動に取り組む場合、材料費の一部を補助するもの。

梁桁等における高品質乾燥材使用量（ m^3 ） $\times 15,000$ 円/ m^3
（上限：100,000円）

3 成果

今年度は工務店4店21戸に対して補助を行った（木材使用量105 m^3 ）。
工務店がより高品質な乾燥材を利用することにより、地域材の需要拡大に取り組むことができた。

4 課題及び今後の取組

非住宅建築物の木造率が低いことから、県内の建築士に対して木造建築についての知識を習得する研修を実施する。

5 実施状況写真



高品質乾燥材【柱】



高品質乾燥材【柱】

Ⅱ－７ CLT利活用等促進事業

【林産振興室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

新たな建築資材であるCLTは、これまで木造化が困難であった中高層大型建築物への使用が可能であり、今後、少子高齢化等により減少が見込まれる住宅需要を補うことができる新たな木材需要として期待されている。しかし、設計・施工を行う建築士等のCLTに対する理解度が低いことから、CLTの利用に向けた人材の育成が急務である。

(2) 目的

県内の設計・建築士及び林業・木材産業関係者に対するCLTの普及促進

(3) 事業内容

CLTに関する有識者を招へいし、県内の設計・建築産業及び林業・木材産業の関係者に対して研修会を開催するほか、簡易なCLT構造躯体の施工見学会を行い、県内関係者のCLTへの理解浸透を図る。

3 成果

5回開催した研修会に延べ471名が参加するとともにCLTによるパーゴラの建設及び見学会には61名が参加した。これによりCLTに対する理解度促進が図られた。

4 今後の課題と取組

一般的な設計方法等が告示されたことにより、CLTの需要の拡大が見込まれる。

この需要に対応できる環境を整備するために、CLT等利用促進協議会でより具体的な実物件での設計検討やCLT生産・供給に向けた検討を進めていく。

5 実施状況写真



CLT研修会の開催状況



CLT東屋の設置（パトリア日田）

Ⅲ－1 森林づくりボランティア活動促進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県、市町村、森林ボランティア団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県では平成14年に設置した「大分県森林づくりボランティア支援センター」を中心に、森林ボランティア活動を推進しており、森林ボランティア参加者数は年々増加している。

また、県下各地に森林ボランティア団体が発足し、荒れた竹林や里山林の整備や森林環境教育を実施しているが、メンバーの高齢化や資金不足で活動の継続が困難な団体が多いのが現状である。

(2) 目的

県民一人ひとりが身近な森林づくりに参加し、県民みんなで森林を守る意識を醸成するために、県民が自ら取り組む森林づくり活動を支援し、森林ボランティア活動の活性化を図る。

(3) 事業内容

①森林づくりボランティア支援センター事業

(ア) 大分県森林づくりボランティア支援センター(大分市高尾山自然公園内)を設置し、森林ボランティア情報の収集・発信等を行い、森林ボランティア活動を支援した。

委託先：NPO法人グリーンインストラクターおおいた	
事業内容	1) ボランティア情報の収集・発信 ・HPによる森林ボランティア情報発信 ・「森林づくりボランティア通信」の発行(毎月1,000部発行)
	2) 森林ボランティア団体(新規31団体)、個人(新規168名)の登録
	3) ボランティア通い帳の発行(182冊)
	4) 森林ボランティア指導者のための安全講習会の開催(18名参加)
	5) 森林づくりに関する相談、情報提供
	6) 森林ボランティア団体協議会の活動支援(情報交換会、学習会開催)
	7) センター施設を活用した森林ボランティア活動、森林環境教育の支援 ・利用団体：11団体 ・利用者数：577人

ホームページの運営



「森林ボランティア通信」



「ボランティア通い帳」



「安全講習会」



センター施設を活用したボランティア活動、講演会など



(イ) 緑と森の総合実践講座

森林ボランティア団体の知識や技術の向上を図るため、森林ボランティア団体等を対象とした研修会を開催した。

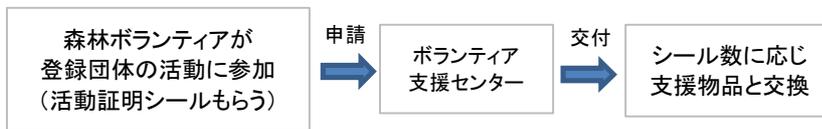
講座テーマ：「身近な樹木のメンテナンス」

	参加者数	内 容
第1回	17名	樹木の基礎知識 里山の整備 樹木の施肥及び防除
第2回	18名	樹木の整枝・剪定



②森林づくりボランティア活動支援事業

森林ボランティア活動を支援するため、森林ボランティア登録者に対し、森林づくり活動実績に応じてタオル・鎌・鋸などの支援物品31件を交付した。



③森林づくりボランティア技術向上事業

森林ボランティアの知識や技術の向上ため、各種研修会を開催し、森林ボランティアの養成を行った。

	開催回数	参加者数	内 容
初級講座	1日×2回	26人	森林・林業の基礎知識 危険な野生生物 応急手当、自然観察 植樹実習 など
	2日×1回		
中級講座	2日×1回	6人	森林づくりの方法 多様な森の観察 森林の手入れ 道具の使い方 など
上級講座	刈払機 1日×1回	23人	刈払機の基礎知識 実習
	チェンソー 2日×1回	30人	チェンソーの基礎知識 実習

<初級講座>



<上級講座>



刈払機研修

<中級講座>



チェンソー研修

④企業参画の森林づくり推進事業

企業が森林所有者、森林組合等と協定を結び実施する企業の森林づくりを支援した。27年度は、1社が協定を行った。

<平成27年度 協定>

協定：1社 ・ 楽天株式会社

⑤森林づくり提案事業

県民からの提案のあった事業を審査し、採択した事業に対し補助を行った。

実施団体：46団体

※詳細は次頁「事業一覧表」を参照

参加者：9,024人

伐竹作業（大分市）



ヤマザクラ植樹（津久見市）



3 成果

- ・森林ボランティア団体等を対象とした新規講座等を開催し、森林づくりの知識や技術の向上を図った。また、県民から提案のあった森林づくり提案事業では46団体を対象に支援を行った。
- ・森林ボランティア登録団体、登録者数ともに増加し、延べ13,083人が森林ボランティア活動に参加した。

<森林ボランティア団体数、参加者数の推移>

年度	登録団体	登録個人(人)	参加者数(人)	目標参加者数(人)	達成率(%)
H18	31	583	9,361	8,500	110%
H19	34	1,000	9,511	8,700	109%
H20	41	1,233	9,734	8,900	109%
H21	46	1,318	12,567	9,200	137%
H22	51	1,912	12,608	9,500	133%
H23	53	2,056	12,497	10,200	123%
H24	60	2,213	12,612	10,900	116%
H25	62	2,329	12,832	11,600	111%
H26	63	2,444	12,902	12,300	105%
H27	89	2,612	13,083	13,000	101%

4 今後の課題と取組

森林ボランティア参加者数については、目標は達成しているものの、近年高止まり傾向にあるため、大学生など若い世代の森林ボランティアの育成の推進する。また、森林ボランティア団体協議会と連携し、各種研修会を開催する等、森林ボランティア団体への活動支援を行う。

平成27年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	局	活動の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数
1	大分北部	東部	両子の森プロジェクト下草刈り(両子山の自然林育成事業)	両子の森プロジェクト	国東市	ボランティアを募り、4年前の植樹地(常緑樹、落葉広葉樹)で下刈りやシカネット調整、自然学習会等を実施し、森について学びながら、地域活性化を図った。	324	130
2		東部	杵築市大田地区の森林環境教育活動事業	有限会社 福田林業	杵築市	森林環境教育活動(ネイチャーゲーム、植樹体験等)を通じて、地域住民や地元小学生・保育園児等に、山林の役割について理解を深めて関心を持ってもらう活動を行った。	438	544
3		東部	金比羅山整備事業	ふるさと別府を守る会	別府市	金比羅山において、公募による森林ボランティアと参道周辺の竹林整備や下刈りを実施した。	48	33
4		東部	城下町地区の里山保全事業	城下町地区まちづくり協議会	杵築市	城下町地区の荒廃竹林において、地域住民等と協働し、伐竹作業、チップ化を実施することで、景観の美化と風情の創出を行った。	371	120
5		東部	黒津崎海岸保安林保全事業	小原三区を良くする会	国東市	黒津崎海岸保安林で下刈作業を行い、松林保全と海岸の景観保全を図った。	83	16
6		北部	三郷みどりの少年団における森林体験学習	三郷小学校みどりの少年団	中津市	森林環境体験学習や干潟体験学習を通じ、子ども達に山・川・海のつながりと森林の働きの重要性を理解させ、緑を愛する心を育成する。	200	106
7		北部	森のめぐみの創設と河川愛護促進事業	宇佐市の森と海の共生を推進する会	宇佐市	子供達を対象に、植樹・稚芽駒打ち体験等を行い、森林の効用や河川や河川の役割等についての講習会、森・川・海の恵みの試食会等を実施。	433	73
8		北部	中津・桜ともみじの里づくり事業	中津・桜ともみじの会実行委員会	中津市	中津市を日本有数の桜ともみじの名所として創造するため、山国川流域に落葉広葉樹を植栽する。	500	40
9		北部	第17回「耶馬の森林」植樹の集い	「耶馬の森林」育成協議会	中津市	「耶馬の森林」植樹の集いを開催し、水を育む森林を守る大切さについて、耶馬溪ダム上下流域住民の相互理解と連携を深めるとともに、運命共同体意識を高める。	500	535
10		北部	宇佐市立駅川中学校木育ものづくり教室ほか	大分の木育を考える会	宇佐市	子どもたちに森林の働きの重要性を理解させ、ものづくりをすることで木材を大切にすることを育成する。	500	264
11		北部	遊び学ぶもみじ村づくり	千部もみじ村	豊後高田市	地域の小学生を対象に、稚芽の駒うち体験や植樹活動を促すことにより、こころ豊かな自動の育成の一役を担う。	134	239
12	大分中部	中部	青江ダム森林公園づくり事業	青江ダム森林公園づくり実行委員会	津久見市	青江ダム周辺の森林整備(つる切り、雑木伐採、植樹)と小学生を対象とした自然体験学習を実施。	438	187
13		中部	うたの新3か年プロジェクト	うたの会	大分市	都市の中に位置する里山林の整備を継続して実施。また、子供自然体験活動の拡充を図るため、森林・自然観察、体験、自然素材を使用したものづくり等の豊富なメニューを実施。	245	684
14		中部	かくれた山里の景観保全と名木の山里づくりと体験学習会	河原内つじ会	大分市	学校や保育所と連携し、子供達に豊かな森林体験が実施できるような森林づくり・環境教室を実施する。	205	220
15		中部	森で遊び、森で学ぶ森での特別授業	つくみ環境美化グループ	津久見市	津久見市中心部の宮山公園などで広葉樹植栽を行い、森林公園として整備する。また、市内小学生を対象とした森の教室や稚芽駒打ち体験等を実施し、森林づくりの意識醸成を図る。	127	350
16		中部	保戸島地区の遠見山森林保全事業	遠見山を蘇らせる会	津久見市	観光地、保戸島の遠見山周辺の竹林整備など森林環境の改善を地域住民と協働して行うことにより、地域振興を促進し、地域住民への森林意識の醸成を図る。	153	100
17		中部	由布市鬼瀬地区の竹林保全事業	特定非営利活動法人いきいき安心おおい	由布市	地域と放置山竹林を整備を実施し森林整備の意識の醸成を図る。また、伐採した竹材の利活用として竹チップの土壌改良材や竹パウダーの固形燃料等の有効性を検討する。	500	100
18		中部	津久見市の春は四浦半島から	四浦を考える会	津久見市	河津桜の植栽や下刈を実施し、豊かな森を育て海を再生する。開花時期が早く、開花期間が長い河津桜の植栽により、「津久見市の春は四浦半島から」と言われるよう取り組む。	500	115
19		中部	森林環境教育を行うフィールド作り	特定非営利活動法人碧い海の会	大分市	竹中地区の「憩いの広場」を中心に森林づくり活動に取り組む。また、子どもたちへ竹工作教室や自然観察教室等の環境学習を実施。	300	700
20		中部	ふるさとの風景を昭和初期の時代に再生する	豊後ふるさと再生塾「昭和の里「かくや姫」」	大分市	荒廃竹林・雑木林の整備、未利用資源の有効活用(炭化)を通じ、「ふるさとの風景を昭和初期の姿に」復元させ、自然を体験できる交流の場として整備する。	500	237
21		中部	荒廃した里山林整備事業	平石コミュニティ事業部会	由布市	平石地区周辺の里山林を保全するため、市民ボランティア、大学生と協働で下刈り作業、伐竹、除間伐等の森林整備を実施。	235	30
22		中部	山桜日本一の里山づくり	永慶寺山登83戸組合	由布市	「山桜日本一の里山づくり」を目指し、ボランティア等による植栽地の下刈り、登山道の整備やヤマザクラの植栽等を実施。	198	54
23		中部	循環型エネルギー推進による里山再生事業	大分エコクラブ	由布市	大分市上野の森、由布市小狭間地区において、子どもたちを対象に森林環境教育を実施し、豊後大野市大鯛の山間部で里山保全活動を実施。	286	420
24		中部	大分市大字本神崎河内地区の里山保全事業	特定非営利活動法人さがのせき・彩彩カフェ	大分市	地域住民との協働による湊川上流域の里山保全(竹林伐採、クヌギの植栽)、森林環境教育活動を実施。	433	50
25		中部	里、屋山地区の里山保全事業	一般社団法人大分県造園建設業協会	大分市	竹林再生事業跡地で地元住民・日本文理大学生ボランティア等と里山保全活動を実施する。また、小学生を対象に森林環境学習会を開催する。	500	183
26		中部	臼杵市海辺地区の里山保全事業	三角台を守る会	臼杵市	地域住民と協働して三角台の森林・景観の整備や登山道の整備を実施し地区住民の森林意識の醸成を図る。	449	120
27		豊肥	里山保全親子森林教室	NPO法人里山保全竹活用百人会	竹田市	森林体験教室(竹箸づくり、自然観察、花炭づくり等)を通じて、子ども達に、森林の重要性を認識してもらう。	168	63
28		豊肥	森と水、林産物との関わり	NPO法人大野町森林くらぶ	豊後大野市	広葉樹林の下草刈りやわさび植栽等を通じて、環境の大切さについて学ぶ。	172	60
29		豊肥	森林環境教育活動	あかい屋根の郷	豊後大野市	小学生を対象に稚芽栽培や駒打ち体験、炭焼き体験等を行い、地域住民と美しい里山づくりを進め、一般社会に対してその気運を高める活動を行う。	420	293
30		豊肥	森林づくり事業	神角寺溪谷緑化推進会	豊後大野市朝地町	神角寺溪谷上流部の杉伐採後の荒地にモミジ・ヤマボウシの植栽を行う。	500	104

平成27年度 森林づくり提案事業一覧表

(単位:千円、人)

NO	流域名	局	活動の名称	事業主体	活動場所	事業内容	交付額	参加者数	
31	大分西部	西部	200海里の森づくり	一般財団法人 中津江村地球財団	日田市	筑後川上流の森づくりを下流域住民と共に行い、水源地域の森林の大切さを周知し、森林整備に対する意識の高揚を図る。	500	365	
32		西部	市民参加の森づくり	日田市	日田市	森づくりをとおして森林の有する公益的機能を守り育てる気運を高めるとともに、上下流域住民の交流・親睦を深める。	106	269	
33		西部	千年の森林づくり	ふるさとキャラバン隊	玖珠町	H3年台風19号被害を機に、森林の重要性について都市部や筑後川下流域関係者に理解を求め、下刈作業など復興の協力をお願いすると共に都市農山村の交流を図る。	298	87	
34		西部	荒廃竹林の整備及び竹の有効利用	千年あかり実行委員会	日田市	管理不足の竹林の伐採・片付けを支援し健全な里山を保全する。また、伐採した竹で灯籠を製作し、日田市千年あかりで有効利用する。	500	185	
35		西部	森を知ろう、体験しよう、森を作ろう	NPO法人 生活環境テラス	日田市	子供達を対象とした森林環境学習や森林体験(魔法の杖作り)、大人を対象とした森林体験(植樹と山歩き)を実施。	310	34	
36		西部	ひと山まるごとガーデン	ラブ・グリーン大山ボランティア 実行委員会	日田市	下流域地域の住民ボランティアによる育林活動を行い水源の涵養に努める。	115	122	
37		西部	子どもの森林体験学習活動	豊後自然塾	日田市	自然体験の少ない子供達を対象に、森林体験活動や森林環境保全学習を実施する。	500	291	
38		西部	子供の炭焼き等森林体験活動	九重宝夢工房	九重町	地域の子供達に炭焼きや椎茸駒打ち体験を通じて、里山の大切さを知ってもらうとともに、荒廃する里山の整備につなげる。	120	70	
39		西部	日田木青会の森林授業・木工体験	日田木材協同組合青壮年会	日田市	子供や保護者を対象に、木育授業及び木工体験を行い、森林・林業に対する意識の向上を図る。	320	300	
40		西部	ヤブトラ物語	奥江の森を元気にする会 森林部会	由布市	由布市湯布院の奥江地区において、除伐・植樹・森林教室等の活動を行い、自然と人間が共生し豊かになっていく方法を模索する。	500	110	
41		西部	ひかりと風の森水源地森林体感交流	柿ノ谷森林づくり実行委員会	日田市	筑後川中津江村最上流水源涵養林を環境学習の場として開放し、下流域までの多くの小学生に水を守ることは森を守ることだと体感を通して認識してもらう。	500	136	
42		西部	大山ダムの森(大山ダム子供の森)整備事業	NPO法人 初島森林植物園ネットワーク	日田市	ダムサイトに、モデル的な水源林・景観林を造成する。生物多様性の高い森づくりを行う。子供の森林教育・自然教育の場として整備する。下流域と交流しながら協働の森づくりを続ける。	500	60	
43		大分南部	南部	森林ボランティア活動	佐伯広域森林組合	佐伯市	公募や自主参加による森林ボランティア活動(コンテナ苗植栽)を実施。	454	200
44			南部	森林づくり伐竹活動	バンブープロジェクト実行委員会	佐伯市	市民ボランティアを募り、伐竹作業を行い、森林環境の改善を図る。	500	330
45	南部		長松山森林整備事業	長松山森林整備推進協議会	佐伯市	荒廃が進んだ長松山の森林整備を実施し、森林環境の保全を図り、地域住民の憩いの場を創出する。	500	120	
46	南部		循環する「佐伯の森林」づくり推進事業	NPO法人 やまもりの会	佐伯市	地区住民や子供達を対象に森林環境学習、森林体験(伐竹、下刈、椎茸駒打ち)等を実施。	500	175	
合計(46団体)							16,083	9,024	

森林づくり提案事業 実施例

<森林づくり活動(植樹・下草刈り・伐竹整備)>



<四浦を考える会>(津久見市)
河津サクラの植栽



<佐伯広域森林組合>(佐伯市)
コンテナ苗の植樹活動を実施



伐竹整備



<千年あかり実行委員会>(日田市)

日田市内の高校生と竹林整備を実施



<大分エコクラブ>(大分市)
オランダの青年に竹林伐採体験



<両子の森プロジェクト>(国東市)
下刈り作業を実施

<森林環境教育(竹工作・木育・駒打ち・自然観察教室)>



<碧い海の会>(大分市)
竹中小学校児童へ竹工作体験を実施



<千部もみじ村>(豊後高田市)
地元の小学生へ椎茸駒打ち体験を実施



<(有)福田林業>(杵築市)
大田波多方地区で木育を実施



<三郷小学校みどりの少年団>(中津市)
地域の子どもたちに自然観察教室を実施

Ⅲ－２－① 森林環境教育推進事業 (森の先生派遣事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

「NPO法人グリーンインストラクターおおいた」に委託

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

子どもたちが身近に森林や自然に触れる機会が減少している。

(2) 目的

次世代を担う子どもたちに森林や自然に対する理解を深めてもらうため、森林体験活動等を実施する。

(3) 事業内容

保育所や幼稚園、小・中・高校、放課後児童クラブ等で開催される行事等に県が認定する「森の先生」を講師として派遣し、森林体験活動等を実施する。

3 成果

森林体験活動等を通じ、子どもたちの森林環境に対する理解と関心が高まった。

<平成27年度実績>

(派遣回数) 98回

(派遣人数) 431人

(体験人数) 子ども 4,164人、大人 1,156人

<実績の推移>

	H25	H26	H27
派遣回数	65回	96回	98回
派遣人数	350人	380人	431人
体験児童数	3,734人	3,784人	4,164人

4 今後の課題と取組

森林環境教育や自然体験に対する関心が高まり、学校等からの申込みが年々増えているため、派遣回数を増やし、森林体験活動の機会の増加を目指す。

5 実施状況写真



Ⅲ－２－② 森林環境教育推進事業 (名樹とのふれあい事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

市町村

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県指定の特別保護樹木63本のうち、経年変化や気象害等により、樹勢の悪化や倒伏の恐れが生じている個体がある。

(2) 目的

県指定の特別保護樹木のうち、不健全樹木を保育、保全し健全な状態に誘導する。

(3) 事業内容

- ・不健全な樹木の保全・・・整枝、剪定、古枝除去など
- ・踏圧等による被害予防・・・進入防止柵設置など

3 成果

4本の特別保護樹木（国東市クスノキ、ムクノキ、ケンポナシ、中津市クスノキ）の治療を実施した。剪定、生育環境を改善する等の治療ができたため、今後樹勢の回復が期待できる。

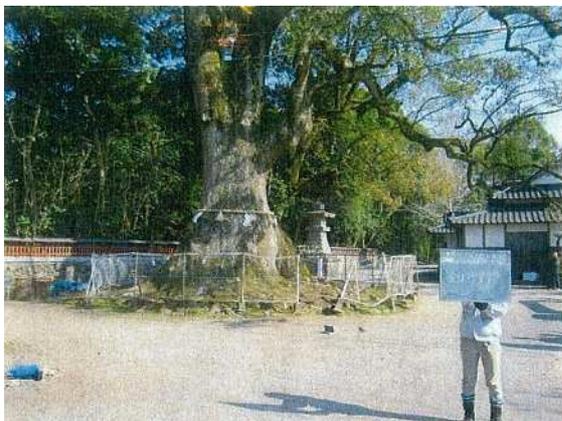
4 今後の課題と取組

特別保護樹木は樹齢が100年以上と古木が多いため、引き続き事業を実施し、樹木の健全化を図りたい。

また、古くから地域に愛されてきたシンボリックな存在であるため、県民が巨樹古木と文化の関わりを学ぶ場としても活用していきたい。

5 実施状況写真

クスノキ（中津市）



作業前



作業後（剪定・除伐・土壌改良）

Ⅲ－２－③ 森林環境教育推進事業 (次代の森林づくり活動リーダー育成研修支援事業)

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県みどりの少年団育成連絡協議会

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分の豊かな森林を次世代に引き継ぐためには、次世代の森づくりを担う人材の確保・育成が課題となっている。

(2) 目的

日頃から地域において森づくり活動や森林環境教育等を実践している子どもたちの中から「次代の森林づくり活動リーダー候補者」を選抜し、将来のリーダーとしての資質向上を図るための研修会を実施する。

(3) 事業内容

世界自然遺産のひとつである屋久島で、森林環境に関する研修を実施する。

(参加者) みどりの少年団28名、ボーイスカウト4名、ガールスカウト3名
(計35名)

(行程等) 平成27年8月19日～21日(2泊3日)

1日目：屋久島環境文化村センター、志戸子ガジュマル園、学習会

2日目：ヤクスギランド、安房川でカヌー体験、感想文書き

3日目：うみがめ館、宮之浦散策

3 成果

①世界的、国内的に有数の森林環境保全地域を体験することにより、広い視点で森林環境に関する理解や知識が深まったほか、郷土のみどりを守る意識が高まった。

②研修会、発表会、報告会等を通じ、より一層「次代の森林づくり活動リーダー」としての資質向上が図られ、今後の活躍が期待できる。

4 今後の課題と取組

意欲ある子どもたちの資質向上を図るため、研修内容をさらに拡充させ、屋久島での研修会を実施していきたい。

5 実施状況写真



屋久島環境文化村センター



ヤクスギランド

Ⅲ－２－④ 森林環境教育推進事業 (おおいた木育活動推進援事業)

【林産振興室】

1 事業主体

NPO 法人 アシスト・パル・オオイタ

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

生活様式の変化に伴い、日常生活の中で木に触れることが少なくなり、五感を通じ木の良さを感じ、木の文化への理解を深める機会が減少している。

(2) 目的

県産材を使用したおもちゃにふれあえる機会の提供により子どもたちに木の良さを理解できる心を育むとともに、木育講座の実施により、木育を県民に広く PR する人材を育成する。

(3) 事業内容

- ①木のおもちゃ展：県内の木工作家等が作成した県産材の木のおもちゃに触れて遊べるおもちゃ展の開催
- ②木育講座の開催：県民が木材と楽しく親しむ機会を提供するとともに、「木育」の重要性をわかりやすく学ぶ「木育講座」を実施

3 成果

県産材の木のおもちゃで遊べるコーナーや、木工作品作りが体験できるコーナーを設け、子どもたちが木に直接ふれあう機会を設けることができた。また、木育に関する講座を開催することにより、森林の働きや県産材について普及を図ることができた。

4 課題及び今後の取組

今後は、木育の普及ができる人材を幅広く育成するために、木育の重要性をわかりやすく学ぶ講座の開催や、実践活動の場を提供する。

5 実施状況写真



県産材の木のおもちゃで遊ぶ子どもたち



木育講座を受講する大学生

Ⅲ－3 祖母山避難小屋トイレ整備事業

【景観・まちづくり室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年の登山ブームにより登山客が増加しており、祖母傾山系をユネスコエコパークに認定する取り組みが行われている。一方で環境に配慮した山岳施設設備は十分でない状況にある。

(2) 目的

汚物等を土壌に浸透させることのない環境には配慮したトイレを整備することで、登山客の利便性及び衛生環境の向上を図る。

(3) 事業内容

祖母山五合目避難小屋に汚物を分解処理し、浄化した水を蒸発散させる槽を備えたバイオトイレを男女各1基ずつ設置

(単位：円)

実施主体	事業箇所	事業費
大分県	祖母傾山五合目 避難小屋トイレ	14,208,480

3 成果

衛生的で、環境共生が図れるトイレの整備により登山者の利便性が向上した。

4 今後の課題と取組

バイオトイレの機能を維持するための管理・清掃を定期に実施し、市と協力してトレッキングコースの整備やPR等により登山客の増加を目指す。

5 実施状況写真



完成写真



トイレ内部（男・女）

Ⅲ－４ 由布登山口環境整備事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

別府市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

由布岳・鶴見岳周辺は、大分県を代表する景観の一つであり、それを求めて多くの登山者や観光客が訪れているが、由布岳正面登山口の園地にある昭和52年に別府市が設置した汲み取り式和式トイレが老朽化しており、利用者から「臭い、汚い。」という苦情が多く寄せられていた。

また、今後アジア等からの観光客の増加が予想される中、登山口に設置された注意喚起用看板は多言語標記がされておらず、外国人に対し非常に利用しづらいものとなっていた。

(2) 目的

老朽化したトイレを整備し、由布岳を訪れる登山者や九州横断道路を通過して大分県を訪れる観光客に良好な施設環境を提供する。

また、アジア等からの観光客増加に対応するため、看板を多言語標記にする。

(3) 事業内容

①由布岳正面登山基地トイレの改築

県産木造平屋建て 延べ床面積 42.5㎡

便器数 男：小2大1、女：大2、ワイド：大1（車椅子用）

②注意喚起用看板

大1基、小2基 4カ国語で標記（日本語、英語、韓国語、中国語）

③アスファルト舗装

舗装面積 126㎡

3 成果

外国人を含めた多くの登山者や観光客に対して、森林レクリエーション施設としての由布・鶴見岳自然休養林に良いイメージを持ってもらえるとともに、木造施設を実際に見て触れることで県産木材の良さがPRできる。

4 今後の課題と取組

今後、大分県を訪れる外国人数の増加が予想されるため、外国人観光客にとってより利用しやすいよう外国語標記の拡充を図る。

また、本トイレは、障がい者にも利用されることから、トイレ利用に支障がないようトイレ周辺の舗装を継続的にメンテナンスする必要がある。

5 実施状況写真



由布岳正面登山基地トイレ



多言語看板（大）



多言語看板（小）

Ⅲ－５ 森林環境学習促進事業

【社会教育課】

1 実施主体

大分県立社会教育総合センター 香々地青少年の家 九重青少年の家

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は優れた自然景観や多様な野生動植物など豊かな自然環境に恵まれているが、その豊かな自然環境を守っていかうとする県民の意識は必ずしも高いとは言えない。県民一人ひとりの環境に関する意識を高めるとともに、それぞれが自発的に環境保全に取り組む意欲を増進させる仕組みを構築するとともに、環境教育を進めていく人材の育成も必要である。

(2) 目的

森林環境学習指導者を活用して、環境に関する学習機会の提供や指導者を派遣することにより、自然体験活動や環境学習・活動の促進を図る。

(3) 事業内容

- ①「このえエコレンジャーキッズ」の実施
- ②「このえ緑の子ども園」の実施
- ③「森林（もり）の環境学習サポート隊」の派遣
- ④「森林環境学習指導者スキルアップセミナー」の実施
- ⑤「森林環境学習指導者」活用調査研究
- ⑥「学びと健康の森」整備

3 成果

森林環境学習指導者は意欲的に研修に取り組み、「このえエコレンジャーキッズ」や「このえ緑の子ども園」において、新規プログラムの作成及び指導の改善に活かすことができた。各事業の参加者も、様々な環境学習を体験し、リピーターも数多く見られ、子どもや保護者にも環境学習の重要性を体感してもらうことができた。また、香々地青少年の家の「学びと健康の森」の整備も整い、各事業において有効に活用することができた。

4 今後の課題と取組

森林環境学習指導者の体験的参加型森林環境学習プログラムの実践における企画・運営力を向上をさせることにより事業の更なる充実を図り、森林環境学習指導者が大分県の環境教育推進に寄与する存在であることを県民にアピールしていく必要がある。

また、香々地青少年の家では、「学びと健康の森」を活用した新たな活動を開発し、学校や各種団体の利用拡大に向けた取組を強化していく必要がある。

5 実施状況写真



このえエコレンジャーキッズ



このえ緑の子ども園



香々地ファミリークラブ

Ⅲ－6 ごみゼロおおいた作戦推進事業

【地球環境対策課】

1 実施主体

ごみゼロおおいた推進隊、NPO法人、ボランティア活動など社会貢献活動を行う法人格を持たない非営利団体等

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

地球温暖化問題をはじめ、様々な環境課題の解決のためには、子どもの頃からの特に実体験を伴う環境学習が重要である。しかし、学校現場においては、一部に環境教育に取り組む学校もあるが、教科では無い、時間や予算が無いといった理由により、年間を通じた計画的なものが十分には実施されていない。他方、青少年団体等で環境教育に取り組む団体もあるが、単発的なものが多く、体系的な活動を実施したくても資金面で困難な団体も多い。

(2) 目的

大分の恵み豊かな自然環境を守り、将来に継承するため県民総参加で実施しているごみゼロおおいた作戦の取組を次世代に引き継ぐため、県内の子どもたちが環境問題への関心を深め、解決に向けて自ら考え行動する力を育む。

(3) 事業内容

県内の子どもたちに対する自然体験活動など実体験を伴う年間を通じた環境学習を行う団体に対して支援を行う。

3 成果

- ・採択団体 14団体
- ・受講者数 延べ756人
- ・受講者の声 「大分の豊かな自然や生き物を守るために、ごみの分別など、わたしたちでもできる身近なことから取り組んでいきたい」等

4 今後の課題と取組

環境教育を県全域に広げるためには、多種多様な団体が環境教育を実施することが必要であり、事業に応募したいが、学習方法や場所の選定など環境教育のノウハウがないといった団体が存在するため、平成28年度は、自然体験活動が行える県の公共施設を斡旋したり、希望する団体には県環境教育アドバイザーの助言を受けることができることとし、事業への応募団体の多様化と団体のレベルアップを図る。

5 実施状況写真



大平山友遊エコクラブ（別府市）
「植物観察会」



アイラブグリーン大分（大分市）
「落ち葉プール」

Ⅲ－７ 豊かな水環境創出事業

【環境保全課】

1 実施主体

4つのモデル河川で水環境保全活動を行うNPO、自治会等
(※モデル河川：筑後川、大分川、大野川、犬丸川)

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

近年、河川の環境基準は達成しているが、水質データと県民の意識に乖離がある。また、豊かな水を育む森林の保全活動や河川や海の美化・清掃活動等が特定の住民や地域に限定され、広がりが不十分である。

(2) 目的

モデル河川の流域住民が主体となる流域会議で、それぞれの流域の課題に応じた水環境保全活動を展開し、豊かな水環境の創出を図る。

(3) 事業内容

- ・モデル河川の流域住民が行う水環境保全活動の支援。
- ・生活排水及び事業排水対策の普及・啓発等。
- ・他流域との交流・研修の実施

3 成果

- ・モデル河川における流域住民の親水意識の向上。
- ・流域市町での生活排水処理率の向上。
(例)九重町 45.1% (H25 末) → 53.1% (H28 末)
- ・新たな水指標「清流度」の取り組みがスタート。

4 今後の課題と取組

- ・引き続き、各モデル河川の実態に応じた柔軟な支援を実施。
- ・水環境を保全する上での森林と川と海のつながりを啓発し、各フィールドが連携した保全活動の実施を推進。

5 実施状況写真



小学生による源流域での清掃活動



清流度調査

Ⅲ－８ 観光行政事務指導費

【観光・地域振興課】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

大分県の製材品出荷量は480千m³と全国5位の規模を誇っているが、県内及び首都圏において大分県産材の認知度は進んでいない状況にある。

一方、観光に目を向けると、平成26年度より「おんせん県おおいた」のキャッチフレーズを用い、首都圏等で大分の魅力を積極的にPRしている。おんせん県とともに、効果的に大分県産材のPRを行い、更なる県産材の認知度向上に努める必要がある。

(2) 目的

大分県産材を活用したツールを用い、森林資源豊かな大分県と県産材の良さをPRする。

(3) 事業内容

大分県産材を見て、触れて、木の良さを体感できるPRグッズの作成
(県産材風呂桶200個)

3 成果

「おんせん県おおいた」とともに、効果的に大分県産材のPRができ、県産材の認知度向上に繋がった。

4 今後の課題と取組

おんせん県おおいたのPRイベント等において、風呂桶を活用し、更なる県産材のPRに取り組む。

5 実施状況写真



Ⅲ－９ 「山の日」制定記念祭

【生活環境企画課】

1 実施主体

大分県、九重町、竹田市

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

本県は緑豊かな山野、清らかな河川など豊かな自然に恵まれているが、こうした自然を将来に継承していくためには、県民の自然への理解を一層深める必要がある。こうした中で、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という趣旨で、平成28年から国民の祝日として「山の日」（8月11日）が制定されることになった。

(2) 目的

新たに国民の祝日となる「山の日」の制定を記念し、大分の山や自然に親しみ、その恵みに感謝し、「山の日」に向けた機運を醸成するため、「山の日」プレイベントを開催する。

(3) 事業内容

期日：平成27年8月11日（火）

開催場所：玖珠郡九重町大字田野 阿蘇くじゅう国立公園 長者原園地ほか

開催内容：

① 記念式典

- ・オープニングアトラクション（九重あばれ獅子&九重樽太鼓）
- ・主催者・来賓あいさつ
- ・全国から寄せられた「山へのメッセージ」紹介
- ・地元コーラスグループらによる合唱「坊がつる讃歌」「山は心のふるさと」
- ・地元小学生による、おおいた「山の日」宣言

② 記念イベント

健康ノルディック・ウォーク教室、九州オルレ、親子登山、自然観察会、いきものウォッチング

③ 体験・展示ブース

巣箱づくり、丸太切り体験、生きもの展示、生きものクイズ 等

3 成果

- ・記念式典参加者 約300人（山岳関係者、自然保護関係者等）
- ・多くの人々が体験型のイベントに参加し、山や自然に親しみ、理解を深める契機となった。

4 今後の課題と取組

より多くの県民が山や自然への理解を深めるよう、自然とふれあう機会をつくるとともに、自然保護活動の推進を図る必要がある。

今後も、毎年の山開きや「くじゅうの自然に感謝する日」等の機会に、山の環境保全活動に関する普及啓発を図っていく。

5 実施状況写真



地元小学生による、
おおいた「山の日」宣言



体験・展示ブースでの巣箱づくり

Ⅲ－10 みんなで支える森林づくり推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

森林環境税は「県民の理解と協力の下に、森林環境を保全し、森林を全ての県民で守り育てる意識を醸成する」ことを理念としているが、森林環境税の認知度はまだ低く、税の理念や用途が県民に浸透しているとはいえない状況である。

(2) 目的

森林環境税導入の理念を広く県民に浸透させるため、森林づくり活動への県民の参加を促し、県民総参加の森林づくりを推進する。

また、森林環境税の適正な運営を行うため、県民の代表からなる外部委員による森林環境税活用事業の審議・検証を行い、効果的な税の活用を図る。

(3) 事業内容

①第15回豊かな国の森づくり大会の開催

県民総参加の森林づくりを推進するために、豊かな国の森づくり大会を開催した。

- ・開催日時：11月27日（土） 9：30～12：00
- ・開催場所：大分スポーツ公園（大分市大字横尾）
- ・大会テーマ：「よみがえる里山、花と緑で育つ豊かな未来」
- ・主催等：大分県、大分市、(公財)森林ネットおおいた
- ・大会規模：参加者数500人（みどりの少年団、大学生、森林ボランティアほか）
- ・森林づくり活動：植樹 120本（ヤマザクラ、コナラ、ヤマモモ）
里山林整備（伐竹、つるきり等）1.6ha
自然観察林整備0.58ha（除伐、つる切り等）
木育教室（参加者約100名）

記念樹贈呈式



植樹



里山林の整備



ノルディック・ウォーキング体験コーナー



②新たな森林づくり推進体制整備事業

・「森林づくり委員会」の開催

森林環境税を活用した事業の適正な運営のため、森林づくり委員会を開催した。

回数	開催日	協議事項
第1回	5月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税制度の見直しについて ・平成27年度森林環境税活用事業の予算概要 ・新たな育林技術等研究開発事業の審査
第2回	6月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税の事業成果の検証 ・森林づくりの課題と今後の方向性について ・第2期森林環境税報告書の骨格について
第3回	8月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税報告書（案）について ・知事との意見交換
第4回	平成28年1月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境税条例の改正について ・第3期森林環境税の取組方針について <p>現地視察：大学生の里山保全活動（NBUの森） ：竹林整備事業地（亀塚古墳公園周辺）</p>

・「森林づくり流域協議会」の開催

地域における森林環境税事業の適正な運営のため、森林づくり流域協議会では、流域内のNPO等が行う森林づくり提案事業の審査や事業成果の検証等を行った。

流域協議会	内容	開催回数
大分中部・大分南部 大分西部・大分北部 (4流域)	<ul style="list-style-type: none"> ・「森林づくり提案事業」（公募事業）の審査、実績の検証 ・森林環境税事業地の視察、意見交換等 	計8回

・「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」の開催

外部委員から提言や助言を受けビジョンの実現を推進するために設置した「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」では、生産林・環境林の区分や低コスト育林（造林）、竹林の活用・整備などのビジョンのテーマに沿った取り組み状況並びに今後の計画について検討し、ビジョンの効果的な実施を図った。

内容	開催回数
<ul style="list-style-type: none"> ・生産林、環境林の区分や低コスト育林（造林）等の各テーマの取組状況の検討等 ・森林づくりビジョンの推進方法の検討等 	1回

3 成果

(1) 豊かな国の森づくり大会の開催

多くの県民に森づくり活動を体験してもらうことで、森の役割や、森林づくりの重要性について理解を深めることができた。

(2) 新たな森林づくり推進体制整備事業

第三者機関である「次世代の大分森林づくりビジョン推進会議」で、森林環境税活用事業の成果検証や、次年度事業の内容について意見を聴取し、県民の意見を取り入れることで、森林環境税を適正に運用することができた。

4 今後の課題と取組

多くの県民に森林環境税や森林づくりに対する興味を持ってもらうため、森づくり大会の内容などを工夫し、引き続き県民総参加の森林づくりを推進する。また、森林づくり委員会等を利用し、県民の意見を取り入れ、森林環境税の適正な運営管理を行う。次世代の大分森林づくりビジョン推進会議では、引き続き生産林候補地の検証等を行う。

Ⅲ－11 おおいたの森林づくり広報推進事業

【森との共生推進室】

1 実施主体 大分県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

県政モニターアンケート調査の結果、税制及び税活用事業の認知度が低かったため、すべての県民で守り育てる意識の醸成という面で、県民への周知が十分とは言えない状況である。

(2) 目的

森林環境税を広く県民に知ってもらい、「県民総参加の森林づくり」の意識醸成を図るため、各種媒体を利用した広報活動を行う。

(3) 事業内容

①マスメディア等による広報

- ・ 県庁ホームページによる情報提供（随時）
- ・ 新聞広告9回（森林環境税事業のPR、事業募集の広報等）
- ・ 大分県森林づくりボランティア支援センターホームページの改修（森林環境税ページ等の開設）
- ・ Facebookページの開設（豊かな国の森林づくりFacebook）

②その他の広報活動

- ・ 森林環境税パンフレットを作成し、イベント等で配布（3,300枚）
- ・ 森林環境税事業の実績報告書を、市町村等へ配布、HPで公開した。
- ・ マスコットキャラクター「もりりん」着ぐるみを各種イベントに貸出し、森林・林業、森林環境税に関するPRを行った。（もりりん貸出し回数：23回）
- ・ 「農林水産祭」や「森づくり大会」において森林環境税に関するコーナーを設置し、森林環境税のPRを行った。また、来場者を対象に森林環境税の認知度等に関するアンケート調査を実施した。

3 成果

新聞広告やテレビなど各種媒体を活用し、森林環境税に関する広報を行い、森林づくりに関する様々な情報を提供することで、「県民総参加の森林づくり」の意識の醸成を図った。

4 今後の課題と取組

森林環境税の導入や用途について知らない県民が未だに多くいることから、今後もアンケート等を通じて認知度の把握を行う。また、SNS等を活用し、タイムリーな情報発信を行うほか、イベント等にキャラクターを派遣し、PRを実施する。

5 実施状況写真

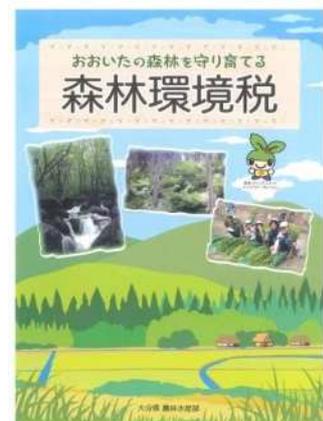
ミラノ博に参加



森林環境税コーナー



森林環境税パンフレット



Facebookページ開設



広報番組に出演



Ⅲ－１２ 新たな育林技術等研究開発事業

【森との共生推進室】

1 実施主体

NPO等の団体、県

2 実施事業の概要

(1) 現状と課題

森林の公益的機能を持続的に発揮していくためには、既存の育林技術に加えて、低コストで効果的な育林技術の研究開発や森林資源の新用途開発等が課題である。

(2) 目的

森林の適正管理を確保するため、森林環境の保全を目的とした効果的な育林技術の開発や、木材の新たな需要拡大等を目的とした用途開発を支援する。

(3) 事業内容

「災害に強く、生物多様性に配慮した森林の整備」に資するもの、「低炭素社会に向けた森林資源の確保と循環利用」に資するものを公募テーマとして募集し、各実施主体の試験研究および調査にかかる経費を助成する。

3 成果

※各取組の詳細は、次ページ以降に記載

4 今後の課題と取組

森林・林業を取り巻く情勢が厳しさを増す中で、管理の行き届かない森林が増加し、公益的機能の低下が危惧されている。今後も引き続き、効果的な育林技術の研究開発と木材の新用途開発等に取り組み、森林の適切な管理を推進し、公益的機能の保全を図る。

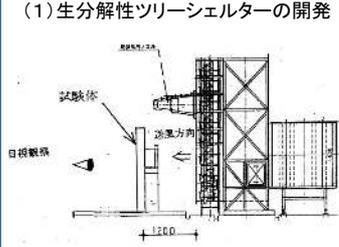
5 実施状況

番号	実施主体	事業名称	実施期間	27年度補助額
1	大分市佐賀関地域里山再生振興協議会	地域資源(ヤブツバキ)を活かした里山再生	H25～H27	530千円
2	大分県生分解性ツリーシェルター研究会	生分解性シェルター及び木製支柱の開発	H27	300千円
3	出野わさび研究会、つえエーピー	簡易型沢わさび圃場造成研究実証事業	H27～H28	500千円
4	おおいた早生樹研究会	早生樹バイオマス+αの森林づくりパイロット事業	H27～H29	700千円

(番号1) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	大分市佐賀関地域里山再生協議会
事業主体名	大分市佐賀関地域里山再生協議会・協議会長 田代 洋丞
責任者(職、氏名)	事務局長 大分短期大学 園芸科 吉野賢一
研究期間	平成25年度～平成27年度 3ヶ年
研究開発費	499,000円(森林環境税 499,000円、自己資金等 0円)
研究目的	大分市旧佐賀関地域を対象に産・官・学連携による、地域資源(ヤブツバキ)を活かした里山の再生と振興を図る。
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発した新商品(ドレッシング・シロップ)の販売促進 (製造開発:ユフキヤ醤油株式会社、販売先:道の駅・さかのせき) 2. 地域におけるヤブツバキの優良系統を選抜するための毎木調査(着果・開花) 3. 毎木調査結果を踏まえ地域のヤブツバキの古木群調査(17個体)を明らかにした 4. 育林事業の一環としてヤブツバキ・ハゼノキ・ヤマザクラ計145本の植樹 5. 里山の再生・振興を図るための講演会を開催
研究成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開発した新商品(関椿ドレッシング・関椿シロップ)の販売促進 (ユフキヤ醤油株式会社製造:平成27年4月1日から「道の駅・さかのせき」にて販売開始) 2. 佐賀関地域内11地区51個体のヤブツバキ毎木調査(着果・開花)を実施 3. ヤブツバキの古木群(17個体)を明らかにした (推定樹齢:161年～308年:199年) 4. 関崎海星館用地にヤブツバキ・ハゼノキ・ヤマザクラ計145本の植樹を行った (平成27年7月11日:平成28年3月5日) 5. 里山再生振興講演会を開催した 講師:九州大学名誉教授:藤枝国光氏(平成27年7月11日:平成28年3月5日) 6. 事業完了報告を発刊(平成28年3月15日) <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>図1 販売開始した開発商品</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>図2 地元住民・学生らによる植樹(関崎海星館)</p> </div> </div>
普及性	地域資源(ヤブツバキ)を活かした新商品(ドレッシング・シロップ)を開発したことにより、地域振興・活性化に繋がる。地域のヤブツバキの個体調査によって、古木群の発掘を行い保全の機運が高まった。さらに、地元住民らによる植樹によって、景観形成につながる。
課題	新商品(ドレッシング・シロップ)については、コストの低減が課題となった。機能性の高い、椿油を利用した新たな商品開発も今後の課題。地域内の貴重な古木群については、今後、文化財として保全する。今後も植樹の推進を図り、里山・里海の再生による地域振興・活性化を図る。

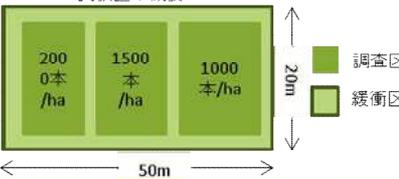
(番号2) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	生分解性シェルター及び木製支柱の開発
事業主体名 責任者(職、氏名)	大分県生分解性ツリーシェルター研究会 代表 瀬戸 享一郎
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年
研究開発費	447, 213円 (森林環境税 300, 000円、自己資金等 147, 213円)
研究目的	現在、苗木に筒状のシートを被せて保護するツリーシェルターがある。 このツリーシェルターは単木毎にシカから苗木を守るため、ある程度の粗放的な管理に適しているというメリットがあるが植栽後10年前後にツリーシェルターの撤去が必要というデメリットがある。 又昨今、木材供給や地球温暖化防止の観点から、伐採したら植栽するという循環型林業を実践していくことが求められるが、材価の低迷や造林・シカ防除費用が負担になり伐採後に再造林をしない、再造林放棄地問題が発生している。 以上のことから、より一層低コスト化・粗放化が可能で、且つシカに強い再造林手法を構築す
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生分解性ツリーシェルター及び木製支柱の開発 ・スギコンテナ苗植栽及びツリーシェルター設置(50本(0.03ha)×3試験地) ・ツリーシェルター設置の工程調査 ・シェルター設置状況調査 ・スギ苗木成長量調査
研究成果	<p>(1)生分解性ツリーシェルターの開発</p>  <p>【図表:耐風試験装置】</p>  <p>【写真:大分県日田市産スギ木製支柱】</p> <p>(2)生分解性ツリーシェルターの試作・設置</p> <p>《試験植栽地》</p> <p>県内3カ所のシカが生存する地域(日田市、耶馬溪町、佐伯市)に設置</p> <p>《ツリーシェルター設置本数等》</p> <p>○佐伯市試験地(苗木:スギコンテナ苗) 生分解性ツリーシェルター40本、現行品ツリーシェルター10本、シェルター無20本</p> <p>○耶馬溪町試験地①(苗木:スギコンテナ苗) 生分解性ツリーシェルター40本、現行品ツリーシェルター10本、シェルター無10本</p> <p>○耶馬溪町試験地②(苗木:センダン) 生分解性ツリーシェルター40本、現行品ツリーシェルター10本、シェルター無10本</p> <p>○日田市試験地(大分県林業試験場現場内、苗木:スギコンテナ苗) 生分解性ツリーシェルター5本、現行品ツリーシェルター10本、シェルター無5本</p> <p>(3)事業の効果</p> <p>当研究により大分県初となる木製支柱を開発することができた。 またこれにより、 ・支柱だけでなくその他の資材を生分解性とすることでツリーシェルターの撤去作業をなくし、造林コストを低減させることができれば循環型林業体系の構築へ貢献すること ・生分解性ツリーシェルターの資材を木製支柱とすることで現在用途の限られている材や製材端材の有効活用を図り地域経済の活性化につながること といった、当初の生分解性ツリーシェルターの開発による波及効果を確認することができた。</p>  <p>【写真:シェルター設置後@大分県林業試験場】</p>  <p>【写真:試作した生分解性ツリーシェルター】</p>
普及性	<ul style="list-style-type: none"> ・生分解性シェルター及び木製支柱の開発により造林コストを低減させることができれば循環型林業体系の構築へ貢献すること ・生分解性ツリーシェルターの資材を木製支柱とすることで現在用途の限られている材や製材端材の有効活用を図り地域経済の活性化につながる
課題	今後は継続的に木製支柱やチューブの経年劣化や耐風性等の調査を実証していくことで、生分解性ツリーシェルターの改善点等を検証していく必要がある。

(番号3) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	簡易型沢わさび圃場造成研究実証事業
事業主体名	出野わさび研究会、つえエーピー(商品開発等 連携企業)
責任者(職、氏名)	代表 佐藤 学
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年
研究開発費	1, 209, 741円 (森林環境税 500, 000円、自己資金等 709, 741円)
研究目的	日田地域はわさび栽培が生産量で九州1位であるが、林間やハウスを利用した加工原料用の葉茎栽培が中心であり、商品価値の高い根わさびの生産はほとんどなされていない。それは①沢わさびの栽培が難しいことに加えて、②造成単価が4万円/m ² と高いことが要因に上げられる。 そこで、生育が良好で長期間の使用に耐えられ、且つ造成単価を半額以下に抑える沢わさび圃場の造成を実証検証するとともに、日田地域の特産であるわさびの高付加価値化(根わさび導入)を図る。
研究内容	<ul style="list-style-type: none"> ・沢わさび圃場造成予定地の調査 ・沢わさび圃場造成工事 ・圃場への定植
研究成果	<p>○沢わさび圃場の造成技術の確立及び造成費用の軽減</p> <p>沢わさび圃場の造成単価は通常4万円/m²と高額であり、生産者の負担になっている。そこで、当研究では圃場の造成単価を砕石の使用や造成作業時に発生した石の活用により軽減できるかを実証した。 単価の高い川石の代わりに砕石を使用したことで、経費を削減するとともに、石を篩にかける作業を省略できた。また、現地で資材を調達することで、一部の資材費、運搬費等の経費削減を可能とした。 <small>※造成単価は人件費等含む</small></p> <p>その結果、造成単価は約1万円/m²、通常の約25%に軽減することができた。加えて、砕石の使用により造成作業の効率化も図られた。</p>  <p>○沢わさびの生育が良好で、長期間の使用に耐えられる圃場の造成</p> <p>沢わさびの生育は栽培に使用する水の成分や生育環境に左右され、どこでも良好な生育が望めるものではない。 当研究では、定植後のわさびの生育調査を行い、当該圃場が沢わさびの生育に適しているか、また長期間の使用に耐えられるかを検証していく。 現時点では生育は良好であるといえる。沢わさびは定植後、1年半で収穫を迎えるため、継続して生育調査をし、検証していく。</p>  <p>沢わさびの圃場の造成技術及び栽培技術が確立されたことにより、今後、葉茎わさびの</p>
普及性	沢わさび生産の取り組みが新聞やテレビ番組等で広く周知され、「水郷日田＝わさび産地」のイメージアップが図られた。
課題	現在、沢わさび苗の成長(大きさ)には個体差があり、その個体差が最終的な収穫物の大きさに影響してくる。今後は、収穫物の品質の安定化に向けて、成長の良い優良種苗の確保を図る。

(番号4) 新たな育林技術等研究開発事業成果取りまとめ票

研究課題名	早生樹バイオマス+αの森林づくりパイロット事業
事業主体名	おおいた早生樹研究会
責任者(職、氏名)	(会長)(株)田島山業 社長 田島 信太郎
研究期間	平成27年度～平成29年度 3ヶ年
研究開発費	700,178円(森林環境税 700,000円、自己資金等 178円)
研究目的	国内外の早生樹の造林・利用に関する情報収集と調査研究、県民への情報提供と普及啓発を行うことにより、早生樹を活用した次世代のおおいたの森林づくりに先駆的に取り組む。
研究内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の早生樹を用いた樹種別試験地、密度試験地を造成する。 2. 大分県における早生樹種の適合性を図るため、試験地における活着状況の調査を行う。 3. 早生樹の適正な把握するため、密度試験地の成長量調査を行う。 4. 上記試験地の維持管理に必要な施業(下刈り等)を行う。 5. 早生樹林業の普及を図るためのシンポジウムを開催する。
研究成果	<p>①早生樹の植栽試験を実施</p> <p>ユーカリ(各品種)における生育状況の比較試験(中津江 H27年7月植栽)</p> <p> 植栽樹種 : ユーカリ(10品種) 植栽密度 : 1000本/ha 植栽本数 : 330本 目的 : 品種ごとの活着を比較 結果 : ビミナリス、オブッサの活着良好 </p> <p>寒冷地におけるオノエヤナギの成長試験(前津江 H27年11月植栽)</p> <p> 植栽樹種 : オノエヤナギ →寒冷地に適応、成長が早い 植栽密度 : 1000,1500,2000本/ha 植栽本数 : 150本 目的 : 寒冷地に適した早生樹の把握 適正密度の検討 結果 : 活着率97%(H28.3) </p> <p>試験区の概要</p>  <p> 品種名: オブッサ H27年7月: 樹高約50cm H28年1月: 樹高約110cm </p>  <p> 全景 植栽直後のオノエヤナギ </p>  <p>寒冷地におけるセンダン+ツリーシェルターの成長試験(前津江 H28年3月植栽)</p> <p> 植栽樹種 : センダン 植栽密度 : 1000本/ha 植栽本数 : 50本 備考 : シカ害対策+保温性能を有するツリーシェルターを併用 目的 : ツリーシェルターと早生樹の相性および保温性能と成長の関係把握(活着、成長) </p> <p> 全景 植栽直後のセンダン </p>  <p>②上記成果を早生樹シンポジウム(1月28日開催)にて発表し、普及に努めた。</p>
普及性	保育・再造林経費が安く、回転率が高い早生樹の中から萌芽更新可能で、地域に適合した樹種を選んで利用することにより、近年需要が増加している木質バイオマスなど、低価格な商品の需要に対応できる。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究期間及び期間終了後も成長量調査を実施、下刈り期間及び適正な伐期を検討 2. 伐期の把握後、造林～伐出に要するコスト把握、損益分岐点の検討